



さぎの森小だより

あいさつ・元気・学び合い

No.4 令和7年7月1日

学校教育目標 心豊かな子(徳) 体をきたえる子(体) 学び合う子(知)

あいさつ＝心と心をつなぐ魔法の言葉

校長 星野 和久

「校長先生、おはようございます！」

朝、私が地域に登校指導に出かけると、元気の良い子どもたちのあいさつがたくさん聞こえてきます。子どもたちは登校中のため、私と目線をあわせて、歩きながらあいさつをする子がほとんどですが、中には、丁寧にお辞儀をしてくれる子もいます。朝に限らず、私が教室に入った時でも、あるいは廊下ですれ違った時でも、子どもたちはすすんであいさつや楽しい話をしてくれます。あいさつをはじめ、このように全校の子どもたちと関わることができるのが、私にとって大きな喜びです。

「おはようございます」の由来は、一説によると、日本の伝統芸能である「歌舞伎」にあると言われています。歌舞伎役者は、身支度にとっても時間がかかります。そのため、公演が始まるずっと前には到着して、準備を始める必要がありました。それに対し、裏方の人たちが労いの意味を込めて使った言葉が、「お早いお着きでございます」だったそうです。その言葉が次第に変化して、現在の「おはようございます」の形になりました。ちなみに、「こんにちは」は、「今日は、ご機嫌いかがですか」「今日は、いいお天気ですね」のようなあいさつが、明治時代以降に省略され、「こんにちは」の形が広まったと言われています。多くのあいさつは、相手のことを気かけたり、思いやりたりする気持ちから生まれているのが特徴です。そして、どの時代にも共通しているのは、あいさつが人の心と心をつなぐ架け橋になっているということです。

あいさつは、心と心をつなぐ魔法の言葉。そして、人との「かかわり」を豊かにする大切な言葉です。子どもたちの中にあいさつの習慣が力強く根付き、定着できるように、学校としても力を入れて取り組んでまいります。

＜さぎフェス（児童会まつり）を実施しました。＞

先日、子どもたちが楽しみにしていた「さぎフェス」を実施しました。1年生から6年生までの異学年の子どもたちが縦割り班を組んで、準備から当日の活動まで進めてきました。特に、リーダーとしての6年生の活躍はすばらしく、事前に準備を重ねるとともに、1年生から6年生までと一緒に楽しめる出し物を選び、分かり易く丁寧に遊び方を説明していました。6年生がリーダーシップを発揮して、全校の子どもたちとともに楽しい時間をつくり上げたことをとても嬉しく思いました。また、すばらしいことに5年生が6年生の話をよく聞いてくれて、6年生が動きやすいようにしてくれました。5年生が、6年生の話を受けて班のみんなが動けるようにと、1年生から4年生を見守り、困っている下級生に声を掛けていました。6年生のリーダーとしての動きを、5年生がしっかりと支えていたのです。

リーダーがリーダーシップを発揮し、サブリーダーやメンバーがフォロワーシップを発揮するとき、そのチームは、目的に向かって進む歩みをより一層強くします。そして、このようなチームの中でこそ、お互いに支え合い、メンバーそれぞれが自らの役割を果たし、一人一人が活躍することができると考えています。

今回の「さぎフェス」は、6年生のリーダーシップと5年生のフォロワーシップが、同時に発揮された場面であったことを感じました。このような姿に、さぎの森小の子どもたちがもつすばらしい可能性の大きさを感じることができました。

